

(7) オマーン国

ナショナル・リーダー

総括

SWYハイブリッドは、唯一無二の体験であり、短期間に集中して行われる事業です。オンライン交流と対面交流の組み合わせにより、対面交流の前にプログラムが一步前へ進みました。一連の活動は、事業の目的とSDGsに関するコース・ディスカッションに合ったものになるよう、慎重に選ばれていました。本報告では、オンライン交流、対面交流、活動全般、青年交流の機会、という4つの主な領域についてフィードバックを行います。

オンライン交流について

PYは、オンライン交流を通して強力かつ有意義な体験をしました。時差があるためコミュニケーションは楽ではありませんでしたが、PYは交流がうまくいくよう最大限の努力をしました。課題だったのは、PYが2つのグループに分けられていたことでした。このためオンライン交流期間中、様々な意見を取り入れる機会が制限されました。オンライン交流の重みと重要度を高めるため、小グループでの課題や追加のアクティビティなど、もっと活動ができたかもしれません。oViceの体験は素晴らしいものでした。PYは、当該プラットフォームでのオンラインコミュニケーションを楽しみました。ハイブリッドにせよ乗船するにせよ、SWYがずっとこれを取り入れることを提言したいと思います。PY間の絆とつながりができたことで、対面交流が円滑になりました。

対面交流について

対面交流は、PY及びNLにとって非常に強力な体験でした。非常に短い期間でしたが、集中的に、詰まったスケジュールで行われました。PYの人数も、十分な交流を確保するのに適切でした。様々な活動があったのは良かったです。スポーツ活動がありませんでした。ナショナル・プレゼンテーション (NP) はしっかりと企画されており、

与えられた時間も十分でした。対面交流の要素については、船上でのプログラムとあまり変わりませんでした。モーニング・アセンブリーに始まり、自主活動にいたるまで全ての要素が有意義でした。対面交流の期間については、少なくとも25日間あればより良かったと思います。PYが交流するのに、もっと時間が必要でした。

活動全般について

対面交流のために選ばれた活動は、どれも素晴らしく、強力なものでした。課題別視察は綿密に企画されており、CDの目的にかなうものでした。さらに、地方プログラムも適切に企画されていました。地方プログラムは事業にとって新しい要素であり、過去にはデリゲーションごとに訪問していました。今回、CDごとに訪問したのは賢明で、デリゲーションの各メンバーが異なる経験をしました。今後のSWYでも地方プログラムを活用できると思います。一方、青年たちは、スポーツに時間を使う必要があり、スポーツ活動があれば、プログラムの質により良い影響を与えたと思います。過去事業であったような、船上でのレクリエーションは素晴らしい体験であり、今回なかったことが印象に残りました。SWYハイブリッドでもレクリエーションの企画があれば良かったと思いますが、この点は次回のための提言としたいと思います。

青年交流の機会について

プログラムの期間はそれほど長くありませんでしたが、青年交流の機会は常にありました。文化交流は有意義かつ極めて重要です。PY全員にとって、アイデンティティを表現する機会がありました。NPは、文化を紹介する機会でした。自主活動のアラビアン・ナイトとラテン・ナイトは、交流しながら他の文化について学ぶ、楽しいひとときとなりました。

(8) ペルー共和国

ナショナル・リーダー

主催者の皆さんが事業の成功のため尽力してくださったことに、非常に感謝します。更により良い事業とするために改善すべき点もあると考えています。

1. オンラインで開催されたNL会議は、私たちが取り組むべきこと全てについて準備をするには短すぎました。都合により一部出席できない人もいました。オンラインツールは新たな関係を作る助けになりますが、このケースでは、公平に仕事を分担したり、互いを知るために必要なつながりを作って文化の違いについて理解を深めたりするのに十分ではありませんでした。
2. 他方、PYのオンライン交流は、貴重な友情を築き始める機会となり、その友情は対面交流が始まるとさらに強固なものとなります。様々なゲームをすることで互いのことを知る空間がもっと必要だったと考え、NL主導のワークショップでこれを実現しようと思いました。更にあと数時間、時間があれば、より良い効果があったと思います。
3. 成田における、対面交流の最初の一週間、PYは有意義な会話をし、生涯続く貴重なつながりを作り始めることができたと思います。しかし、多くの人と出会う機会が限られていました。ピア・ラーニング・セミナー、自主活動を含め、同時に行われる活動が多く、主催者が他の活動に加わることが難しく、各セッションの出席者も少人数にとどまっていた。
4. 対面交流前半の食事について、食事を非常に重要視し、温かいものであるべき、蛋白質又は野菜が豊富であるべきなどと考える文化もあります。今回は食事メニューを選ぶことができず、それを不満に感じた人もいたかもしれません。体に良い食事をすることで、学ぶ準備も整えられます。
5. 課題別視察は、非常にしっかりと計画されていました。視察中の講義や活動はPYにとって有意義で、楽しく学べるものでした。視察先は、取り組んでいる課題と密接に関連していました。
6. 私の見方では、地方プログラムはSWYハイブリッドにおいて最も重要性の高い活動でした。知的な面でも情緒的な面でも、プログラムは成功でした。地方プログラム中、PYは、天然資源の保全やコミュニティの働きについて貴重な例を学んだのに加えて、互いに深いつながりを築き、力強く率直な対話をする機会を得ました。
7. ありがたいことに、この事業を特別なものとしているのは船ではなく、人、そしてその人たちが作り出す絆です。その実現には、大勢が集まることで生じる騒音や時間を気にせず交流できる物理的空間が必要です。今後、プログラムをまたホテルで行う場合は、船と同じ心地よさを備えた環境であることを願います。
8. コース・ディスカッションについては、非常に的確に進められていたと思います。PYは学ぶだけでなく楽しむことができ、他のPYが関連テーマについてどのような活動をしているかを学ぶ機会も得ました。
9. SWYの伝統として、事業中のみならず、事業後にもPYに与える情緒的な影響が挙げられます。この意味で、解散式は、体験を締めくくると重要な役割をもつと思います。式の終了後、時間に追われて会場を出るのではなく、お互いに別れの言葉を交わし感情を表現する時間がもてると良いと思います。また、実際の離日の出発時間までの時間になるべく短い方が、理想的な形で事業を終えられたと思います。今回、解散式から実際の出発まで、まる一日あったため、まだお別れの言葉を交わすタイミングではないと感じ、実際にお別れの言葉を交わすタイミング逃してしまった参加者もいました。
10. 最後に、SWYのような特別な事業にとって、2週間という期間は短すぎると考えます。今回はこれまでとかなり異なっていましたが、また違った意味で有意義でした。PY全員にとって、心温まる思い出になったと信じています。

(9) ポーランド共和国

ナショナル・リーダー

SWYは、人生を変える事業です。目を開かせるような観点や機会を得たり、既に手にしているものに感謝したりする人もいます。世界に意識を向けるきっかけや、複雑さを理解する羅針盤、実り多い文化間交流のための枠組みとなったという人もいます。自分の強みをより良く理解する糸口、又は弱点を理解するよりどころであるという人もいるかもしれません。これまでに多数の青年が参加し、多くの物語や背景があり、多くの友情が生まれ、一生心に残る素晴らしい思い出がさらに多く生まれています。

今後のSWYハイブリッドに向けたアイデア

オンライン交流と日本での対面交流を組み合わせたハイブリッド形式は、SWYの全体的な印象や理解に新たな一面を加える貴重なものとなりました。3回のオンライン交流の中では、自己紹介をし、コース・ディスカッション (CD) のテーマについて、良いスタートを切って深く入っていくことに多くの時間を費やしました。オンライン交流はタイムゾーンに応じた2グループに分かれて行われ、PYの半分は、残りの半分と出会う機会がありませんでした。今回、NL主導のワークショップではどちらのグループにも同じ体験ができるような工夫をしましたが、ハイブリッド形式においてはその都度国の組み合わせを変えたグループ分けをすることも一つのアイデアだと思います。ハイブリッド形式の持つ力を活用する別のアイデアとしては、対面交流終了後、さらにオンライン交流を行う (オンライン交流で始まり、オンライン交流で終わる) というものです。他方、オンライン交流については、積極的に参加してもらうのが難しいことがあったとの声もありました。その解決策としては、時間を延ばすのではなく、時間を限ることを提案します。ほとんどの場合、知識を広め相手のことを知るのに最も効率的な機会として、対面交流が挙げられました。

ほとんどのPYは、対面交流のスケジュールは非常に密で、様々なイベントや活動が詰め込まれていたと言うのではないのでしょうか。船上活動のほとんど全ての要素が今回の短期間のプログラムに含まれていたように感じました。しかし時間が足りず、その全てに完全に没頭できないこともありました。その一例が、ホーム・グループです。非常に短いセッションが3回のみ行われ、PYは、時間が飛ぶように過ぎた、もっと多くのセッションがあればよかったと口にしていました。始まったと思ったら終わってしまったように感じました。スケジュールがタイトであることの影響は、自主活動の計画と参加においても明らかでした。たった数日、そして短い時間の間に皆が企画しようとしたため、参加する機会が限られてし

まりました。SWYは、他者と自由に出会い、有意義な対話をし、それによって様々なレベルで絆を作る、インクルーシブな素晴らしい環境を作り出します。期間がもっと長ければ、もっと関係を築き、まだ出会っていない人と出会い、交流する時間があまりなかった人とも関わるができるのにという声がありました。PYが予定された時間以外でも自由に集まったり、サブ・グループを作ったり、単に雑談したりできる場所を用意する又は共有の空間を設けることにも、大きなメリットがあると思います。最後に、スケジュールが詰まっており、皆がこのグローバルな体験から最大限のものを得ようと意欲的であったことから、空き時間や休息時間が少なかったとの声がありました。そのため、休憩時間をもう少し長くすること、全体的にスケジュールに余裕をもたせることを提案したいと思います。

プログラム及び活動についての提案

PYは、CDのトピック及びファシリテーターの知識と十分な準備から、前向きな影響を受けていました。もっと深いセッション、又は一段階上のレベルの自主的なセッションに関心を示した者もいました。時間があれば、こうした更に進んだセッションの参加者を、他のCDグループのメンバーにまで広げることも考えられます。そうすることで、複数のCDに参加し学ぶ機会が与えられます。ほとんどのセッションはSDGs全般を中心に進められましたが、グローバルな青年の経験と知識を活用し、メディア、国際関係、技術の影響、人権といった特定のトピックについて相違点を明らかにすることを提案したPYもありました。オンライン交流が終わるまでに行われたアクティビティの一つに「カルチャー・マップ」があります。これは、時間に正確であることに対する考え方や暗黙のコミュニケーションといったトピックを迅速に説明できるので、対面交流への導入として利用できるのではないかと思います。

青年リーダー

この事業では、若いグローバル・リーダーの育成という共通の目標の下、世界中の青年が一堂に会しました。文化交流、意見交換、SWY中に設けられたその他の機会を通じて学んだことは、この先ずっと活用できるでしょう。もっと時間があれば、ディスカッションや交流活動に加えて、未来のリーダーを育てるために設計された、スキル又は知識をベースとしたセッションを加えると有益であるかもしれません。こうしたセッションは、実践を伴う理論に関するもので、ローテーションを組み、多様なトピックの中からPYがいくつかを選んで出席する形に

することが考えられます。トピックは、時間、組織、紛争のマネジメントに関するものから、批判的思考、意思決定、交渉、モチベーション、適応力、チーム・ビルディングといった実際に使うリーダーシップ能力に関するテーマにいたるまで、様々なものが考えられます。これらの一部でも導入し、文化の違いによって補完し、世界中から集まったPYの考え方を活用すれば、私たちがプログラム中、又は将来において交流する方法に大きな影響があると思います。

学習体験

この事業は間違いなく、異文化体験やグローバルな交流のできる唯一無二の素晴らしい機会であり、グローバルな視点や物の見方に弾みをつけてくれます。準備されたカリキュラムから、そして互いからも学び、交流する機会が常にあり、PYは視野を広げただけでなく、自信を

つけました。始めと終わりで、やり取りが全く異なっているのが見て取れました。容易に会話を始められることに加えて、グローバルなトピックについてオープンに話せることは、PYの今後の人生においてメリットになると確信しています。セッションの準備をする、地方訪問中に皆の前で挨拶するといった機会が一度ならずあったり、出会った人たちと非公式に交流したり、安全かつ友好的な環境で物事を試したりすることで、人生で初めて、PYは自身のスキルや能力に対して大きな自信を得ました。他のPYの好奇心や関心を感じない日は一日たりともなく、本当に刺激を受けました。質問をし、広い心を持ち、まずは好奇心を持つことで、私たちは皆、常に学び、互いにインスピレーションを与えていました。SWYハイブリッドは、多くのPYの人生において、非常に大きな学習体験であり、極めて重要な時であったと信じています。

(10) 南アフリカ共和国

ナショナル・リーダー

2022年11月から始まったオンライン交流から、日本での対面交流、課題別視察、地方プログラムまでの道のりは、楽ではありませんでした。しかし一つの共同体として、外交精神を持ち、共通の目標の下で団結し、誇りを持って私たちの国旗を高く掲げ、日本にたどり着きました。日本までの移動に2日間かかりましたが、この事業が成功するよう企画し、たゆみなくコミュニケーションを取ってくださった素晴らしいチームに会えることを楽しみに、非常にわくわくしながら到着しました。

最初は、オンライン交流に対応するのが少し難しく感じました。何を期待して良いのか分からない者もいたからです。しかし事務局チームが一步一步サポートしてくださり、皆が交流できるように、そして必要があれば自由に質問や報告ができるようにしてくださいました。

事業を通じ、外交、強力なリーダーシップ能力、違いを理解することについて多くを学びました。事務局は、時間を守り、事業のルールに従うという規律を浸透させており、この点は私たちの国へ持ち帰りたいことの一つです。

皆が互いについて、そして日本について学んでいる間に、2週間は早く過ぎていきました。国境を超えた友情を築く機会が得られ、こうした関係を今後どのように育み、将来世代のために維持してくかは、全て私たちにかかっています。

私たち全員が共通して提案したいのは、食事についてです。プログラム中の交流やパフォーマンスに影響を与えているように感じました。異なる国において一般に好まれる料理について認識し、それに基づいた食事が準備されることを提案いたします。

オンライン交流中に提案され、行われたアクティビティ

は素晴らしいものであり、それらを維持することを提案いたします。また、既存のものに多少付け加えても良いかもしれません。PYはまだ自分の殻に閉じこもっており、互いによそよそしい感じでしたが、そうした素晴らしいアイスブレイキングが決定的な役割を果たしました。例えば、誕生日又は兄弟姉妹の数が自分と同じ人を見つけるというアクティビティがありました。

ナショナル・プレゼンテーションは、深くはないものの、異なる文化やバックグラウンドの人々が互いの文化についてよりよく知り、理解するに当たって、非常に大きな役割を果たしました。SWYにおいては、日本語の基本的な単語を学べるセッションを企画することも考えられると思います。たとえ毎朝のモーニング・アセンブリーで2語ずつであっても非常に大きな違いを生み出します。人間は生来、競争して自分が優れていることを示したいので、個人よりもグループで取り組んだ方が興味を持ちやすくなります。一定の単語を学んだ翌日又は2日後に、全ての単語を覚えていた人に何か賞品が与えられるようなコンテスト(任意の日に開催、事前通告なし)を行うことが考えられます。

私からの提案事項として、参加国のNLが各国又は文化において制限されていることを事前にまとめ、各国の参加者に共有したらどうでしょうか。そうすれば皆がそれを知って、生活の中で尊重し守ることができます。また、私たちにとってもアットホームな環境となるよう、近い将来、アフリカの国からもファシリテーターを採用すること、又は、アフリカからの参加国を複数とすることを提案いたします。

プログラムは非常に忙しいため、十分な休息がとりづ

らく、時差への適応、天候、環境によるものではありませんでしたが、南アフリカ・デリゲーションの多くが疲労を感じました。

私たちは、主催者及び事務局チームのためみないご尽

(11) スウェーデン王国

ナショナル・リーダー

スウェーデン王国デリゲーション及びSWYAAスウェーデンを代表し、SWYハイブリッドにスウェーデン王国を招へいいただいたことに対して、日本国政府内閣府及び受入れてくださった全ての県市に心から御礼と感謝申し上げます。スウェーデン・デリゲーションは、今回も成功を収めた事業に参加し、貢献できたことを光栄に思います。本事業により、日本とスウェーデンは更に連携を強化し、SWYAAスウェーデンの存在感とコミットメントが増しました。

スウェーデン・デリゲーションは特に、「世界青年の船」事業及び未来のリーダーの育成に尽力し取り組んでくださっていることに対し、日本国政府に御礼申し上げます。スウェーデンは、SWYコミュニティの一部であることを誇りに思い、SWYハイブリッドに招へいいただいたことを光栄に思います。本事業のために、また日本と連携できたことをうれしく思い、スウェーデン・デリゲーションは、困難で変化し続ける状況の中で事業を続けるために内閣府が示してくださった粘り強さとコミットメントに感銘を受け、非常に感謝しています。

また、スウェーデン・デリゲーションは、SWYハイブリッドは、過去のSWYとは比較できないと認識しています。形式、概要、スケジュールが全く異なっているからです。しかしながら、本評価においては、可能な部分について比較を示します。

初めてのハイブリッド形式によるSWYの概要と形式について、スウェーデン・デリゲーションは、今後の形式がどのようなものであれ、今後の事業においても考慮すればメリットとなる強みがいくつかあると考えました。

本事業が企画、実施された2022～2023年、世界は、困難かつ変化の速い出来事（新型コロナウイルス感染症のパンデミック、参加国の地域における紛争や自然災害、季節性インフルエンザの流行、等）に直面していました。それを考えれば、最初から最後まで内閣府と協力して事業を作り上げられたことをうれしく思います。過去の事業と比較して、特にNLは、最初から、スケジュールの作成等、より幅広く連携していました。事業に対してより弾力的なアプローチができたため、スウェーデン・デリゲーションは、こうした連携を歓迎しました。

オンライン交流の利点は、世界中のデリゲーション間で交流ができたことです。対面交流前にPY同士でつながり、互いのことを知り、交わる機会となりました。これ

力に感謝しています。私たちの質問や要請に決して嫌な顔をせず、いつも朝早くから夜遅くまで私たちに配慮してくださりありがとうございました。

は、実際に会う前につながりができていたということでもあります。皆がSNSやその他のプラットフォームで既につながっているため、長く続く事後活動（PPA）コミュニティができることに疑いはありません。この点は、オンラインでの活動が全くなかった過去の事業と比べた際の大きな利点です。

しかしながら、オンライン交流中、時差が課題であったことは特筆に値します。皆にとって合理的な時間及び形式でミーティングを企画するのが難しかったからです。デリゲーションを2つの「タイムゾーン・グループ」に分けることでこの点が調整されていたと、スウェーデン・デリゲーションは認識しています。この方法はうまくいっていましたが、期間がもっと長ければ難しかったと思います。グループに分けるということは、各デリゲーションはPYの半分としか密に交流していないということでもありました。そのため、今後はオンライン交流を短くし、皆が一堂に会する対面交流に重点を置くよう検討することを提言いたします。

日本滞在中は、集まることのできる共用空間がもっとあれば、非公式な交流を促し、デリゲーションやPY間の交流が深まると思います。SWYハイブリッドのプログラムの多くは、SWY以外の他の宿泊者もいるホテルで行われました。そのため、スケジュール外で他のPYと交流する時間、方法、場所に大きな制約がありました。こうした非公式な交流はSWYの重要な要素ですが、今年度は、そうしたコミュニケーションや集まりを促す場所の不足によって一定の制限を受けました。

さらに、オンライン交流部分は、事業にとって概して建設的で貴重なものでしたが、スウェーデン・デリゲーションは、事業のPY全員が等しくテクノロジーに精通しているわけではないと認識しています。例えばインターネット接続が不安定、ソフトウェアの使い方への理解が不十分といった理由で、オンラインでの活動に一部参加できなかった青年もいました。

また、オンライン交流は、デリゲーションとして早期に互いのことを知り親しくなれたという点で、スウェーデン・デリゲーションにとってメリットがありました。PYはより長い時間交流でき、事前に主要な活動を計画できました。日本滞在中に準備を行う時間と場所が限られていたので、この点はSWYハイブリッドにおいて不可欠でした。

PYの募集という観点からは、今回の事業には異なる対象グループが参加できました。過去の事業は約6週間であったのに対し、今回の対面交流は2週間であったため、フルタイムの仕事をしている者も応募できました。期間がもっと長ければ、おそらくそうはいかなかったと思います。

スウェーデン・デリゲーションはまた、地方プログラムが非常に綿密に企画され、寛大であったことを強調したいと思います。事業の重要なハイライトであり、PYは、より深いレベルで日本、日本文化、日本人を知ることができました。様々なプログラムを企画してくれた地元青年、サポートしてくださったスタッフ、地方公共団体の方々

の尽力によって、PYは皆日本で大きな歓迎を受けていると感じ、関係者全員にとって生涯続くつながりとネットワークを作ることができました。地元青年とPYが、このプログラムなしでは実現しなかったつながりを作った場面が何度もありました。

最後に、日本国政府内閣府が本事業を企画してくださったことに対して、スウェーデンから改めて御礼申し上げます。SWYAAスウェーデンは、今後とも本事業にコミットし続け、さらに連携と支援を進められることを楽しみにしています。地球規模で考え、地域で行動し、Keep SWYing!